

午後 I 試験

問 1

問 1 では、プロジェクトのスケジュール管理技法の基本的な知識と実践力について出題した。ネットワークスケジュールの作成方法や、クリティカルパスがプロジェクトの状況に応じて変わっていくことなどについては、よく理解されていた。

設問 1(2)は、プロジェクトの作業項目の設定に当たって成果物を洗い出す目的を問う設問であったが、本文からスケジュール策定の手順の部分を用いているだけの解答が目立った。成果物を網羅的に洗い出すことで作業項目を漏れなく定義するという目的を理解しておいてほしい。

設問 2(2)、(3)はプロジェクトのリスク要因を把握しているか、その影響の出現をどう監視し、どのように防止するかを問う設問であった。“新バージョンの開発スキルをもった要員が確保できていない”というリスク要因を理解しながら、“品質が確保されているか”というチェックポイントが明示されていない解答が見られた。常にリスク要因とその影響、どのように防止するかを関連付けて理解し、プロジェクト管理の視点に組み込む習慣を身につけてほしい。

問 2

問 2 では、ERP パッケージの導入開発プロジェクトに関し、要件定義工程におけるプロジェクトの推進について出題した。スケジュール策定時の考慮点や準委任契約での責任分担などについては、おおむね理解されていた。

設問 1(2)は、リスク要因を問うていたにもかかわらず、リスクを述べている解答が目立った。設問で何が問われているかを正しく理解し、注意深く解答してほしかった。

設問 2(2)では、“ERP の標準機能と業務要件とのギャップ”のように、本文中の記述を引用し、パッケージ導入時に発生する一般的な問題を記述している誤った解答が目立った。解答に当たっては、“M 社側の要因で”という題意を理解した上で解答してほしかった。

設問 3(2)では、利用部門が既存の業務運用に固執していることに対してどのような対応をとるべきかについて問うた。プロジェクトマネージャは、常にプロジェクトの目的を意識し、目的の達成を妨げるステークホルダの行動に対しては、経営層などの上位者を通してプロジェクトへの積極的な協力を促すことも必要となることを理解してほしい。

問 3

問 3 では、システムの再構築における、プロジェクトの計画立案、プロジェクトの実行管理・運営について出題した。1 次開発、2 次開発、及び別プロジェクトで進めているミドルソフトの開発についての相互の関連、留意事項などについてはおおむね正しく理解されていた。

設問 1(2)では、現行システムにおける機能追加の凍結について問うたが、二重開発に伴う作業量の増加などに着目した解答が多かった。設問で求めていた、現行システムから提供される機能との関連から懸念されるリスクを深く分析した上で、解答してほしかった。

設問 2(3)では、総合テストが円滑に進められる理由を問うていたにもかかわらず、結合テストにおけるメリットを記述した誤った解答が多く見受けられた。テスト環境と各テストの関連を把握し、最適なテスト計画を立案できる能力を身に付けてほしい。

問 4

問 4 では、組込みシステム開発におけるプロジェクトの評価について出題した。欠陥の混入工程・混入原因に着目した品質の分析の基本や、欠陥の予防・早期摘出の有効性と生産性の関係については、おおむね正しく理解されていた。

設問 1(1)では、当該工程よりも前の工程で混入した欠陥が多く検出された場合に、その時点で実施すべき対策を問うたが、“前工程のやり直し”、“前工程に戻って修正”など、前の工程の成果物の品質を検証する具体的な手段への言及がない解答が多く見られた。題意を理解して対策を具体的に記述してほしかった。

設問 2(1)では、多くの欠陥を混入させた一部の担当者に対する対策を問うたが、“担当間で相互にレビューに参加する”、“周辺機能やライブラリのドキュメントを強化する”など、対処がやや広範な解答が目立った。解答に当たっては、制約条件から判断してその対策を実行することが適切かどうか、また状況において求められる効果が適時に得られるか、もう一歩踏み込んで考えてほしい。